山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第195集

国指定史跡

銚子塚古墳附丸山塚古墳

史跡整備事業に伴う発掘調査報告

２００２．３
山梨県教育委員会

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第195集

国指定史跡

銚子塚古墳附丸山塚古墳

史跡整備事業に伴う発掘調査報告

２００２．３
山梨県教育委員会

序文

本報告書は、平成13年度史跡整備事業に伴って実施された国指定史跡銚子塚古墳の発掘調査報告書であります。

山梨県東八代郡中道町に占地する銚子塚古墳は山梨県における前期古墳を代表するものとして、隣接する丸山塚古墳とともに昭和５年に国の指定を受けております。その後、昭和58年から60年にかけて保存整備のための発掘調査が実施され、口縁部に三巴の透かし孔を持つ壷形埴輪や古墳の形態、葺石などの今まで解らなかったさまざまな状況が明らかとなりました。

今回の発掘調査は平成13年10月と平成14年１月にそれぞれ約２週間ずつという短い期間ではありましたが、木製埴輪や壷形埴輪、円筒・朝顔形埴輪が出土したこととともに、後円部の墳端が確認されるという成果をあげることができました。このことは今後、実施される史跡整備事業に有効なデータであることは間違いありません。

末筆にはなりますが、種々のご協力を賜りました関係各位、地元の方々並びに発掘調査と整理作業に従事していただいた方に厚く御礼申し上げます。

２００２年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　　大塚初重

例言・凡例

1．本報告書は平成13年度（2001年度）の史跡銚子塚古墳の国庫補助を受けた保存整備事業の発掘調査報告書である。

2．発掘調査および出土品の整理は、山梨県埋蔵文化財センターで行い、斉藤伸・吉岡弘樹が担当した。なお、第２章を斉藤がそれ以外を吉岡が分担執筆した。

3．写真は、斉藤・吉岡が撮影した。

4．発掘調査および整理作業において、次の機関よりご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（敬称略）

中道町教育委員会

5．本報告書の挿図等に関する指示は下記のとおりである。
遺構・遺物の挿図縮尺は基本的に次のとおりであるが、資料などの大きさにより適宜、縮尺を変化させてある。また、これ以外のドットマークなどの指示については図中に示してある。

遺構　全体図：１／1,000　土層断面図：１／60
遺物　土器類および拓影：１／3・１／4

6．本報告書に関わる出土品および記録図面・写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

目次

序文
例言・凡例

第１章　調査の経緯と組織
　第１節　調査にいたる経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　調査組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第２章　古墳の概観
　第１節　地理的・歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　銚子塚古墳の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第３章　調査方法と基本層序
　第１節　調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　第２節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第４章　調査の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第５章　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

挿図目次

第１図　古墳位置図
第２図　銚子塚古墳　丸山塚古墳測量図
第３図　基本層序柱状図
第４図　トレンチ配置図
第５図　土層断面図その１
第６図　土層断面図その２
第７図　第１～５Ｔｒ出土遺物実測図
第８図　第６Ｔｒ出土遺物実測図
第９図　第７Ｔｒ出土遺物実測図

写真図版目次

写真　1　銚子塚古墳前方部より後円部を望む
写真　2　前方部より西方を望む
写真　3　古墳全景
写真　4　調査前の様子１
写真　5　調査前の様子２
写真　6　調査前の様子３
写真　7　終了後の埋め戻し状況１
写真　8　終了後の埋め戻し状況２
写真　9　第１Ｔｒ　土層断面
写真10　第１Ｔｒ　調査風景
写真11　第２Ｔｒ　土層断面
写真12　第３Ｔｒ　土層断面
写真13　第３Ｔｒ　排水作業
写真14　第４Ｔｒ　土層断面
写真15　第５Ｔｒ　土層断面
写真16　第５Ｔｒ　掘削状況
写真17　第３Ｔｒ　出土木製品
写真18　第１Ｔｒ　出土埴輪片
写真19　第２Ｔｒ　出土埴輪片
写真20　第３Ｔｒ　出土埴輪片
写真21　第6･7Ｔｒ調査前の状況
写真22　第６・７Tr　埋め戻し後の状況
写真23　第６Ｔｒ　重機による掘削
写真24　第６・７Ｔｒ
写真25　第６Ｔｒその１
写真26　第６Ｔｒその２
写真27　第７Ｔｒ
写真28　第７Ｔｒ　掘り下げ風景
写真29　後円部南西　残土処理前
写真30　後円部南西　残土処理後

第１章　調査の経緯と組織

第１節　調査にいたる経緯

甲斐風土記の丘公園内に所在する銚子塚古墳は昭和３年に後円部から石室が発見され、東日本最大級の前方後円墳として、さらに畿内色の強い豊富な副葬品などから前期古墳研究においては重要な位置を占めるようになり、昭和５年２月28日には隣接する丸山塚古墳とともに国指定史跡に指定された。

山梨県教育委員会では昭和51年に風土記の丘建設委員会を設置し史跡範囲内について昭和52･53年には、銚子塚古墳の北西の周溝にかかる一部を除き買収をし公有地化した。これに伴って昭和58～60年度にかけて発掘調査が行われた。今年度は平成13年10月９日～24日と平成14年１月15日～28日の２期に分割して、近年買収の進んだ西側および北側について墳端および周溝の確認調査が実施された。

第２節　調査組織

調査主体　　山梨県教育委員会

調査機関　　山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者　　（山梨県埋蔵文化財センター　文化財主事）
斉藤　伸　　吉岡弘樹

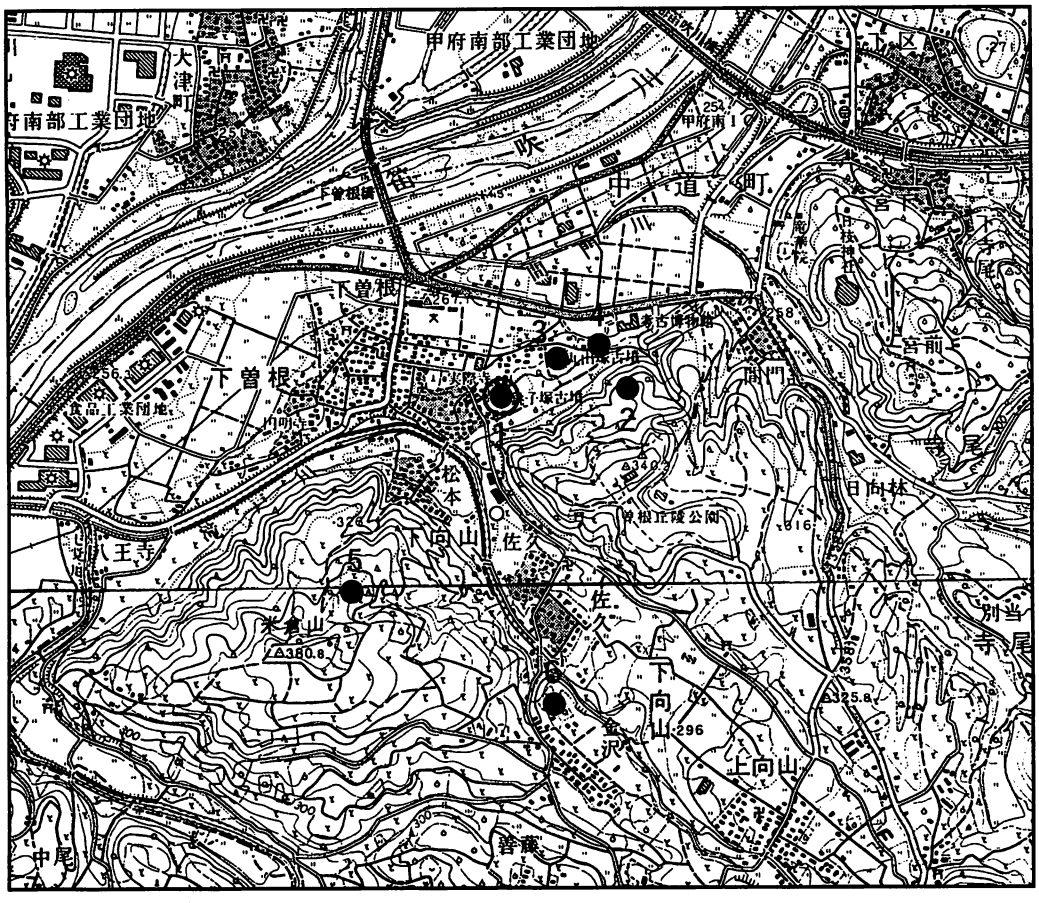
作業員
宮久保あさの　千野富子　小林としみ　長田くみ子　宇野和子
出月多津子　橘田由利子　渡辺喜乃女　伊藤津真子

第２章　古墳の概観

第１節　地理的・歴史的環境

銚子塚古墳の所在する中道町は、旧石器時代より古代に至る間の遺跡が濃密に分布する地域である。銚子塚古墳はこの中道町下曽根の甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園内に占地している。曽根丘陵は甲府盆地南東縁に南北3㎞、東西13㎞の広がりをみせている。丘陵の前縁は急傾斜で平地に落ち込み、御坂山地に源を発する七覚川、間門川などの中小河川によって浸食され、幾つかの舌状台地を形成している。この台地の先端に東山（標高約340m）があり、この北東斜面の山麓に所在する古墳を東山古墳群と呼称している。銚子塚古墳１（前方後円墳・全長169m）はこの一角で標高約260m付近に位置している。このほか東山古墳群には、４世紀中頃から５世紀後半代に築造されたと考えられる大丸山古墳２（前方後円墳・全長99mないし120m）、丸山塚古墳３（円墳・直径72m）、かんかん塚（茶塚）古墳４（円墳・直径26m）などの前期古墳が存在する。

また西方の米倉山古墳群には、本県最古で唯一の前方後方墳であり４世紀前半代の築造と考えられる小平沢古墳５（前方後方墳・全長45m）がある。さらに南方の金沢地域を中心とする金沢古墳群には、天神山古墳６（前方後円墳・全長135m）といった前期古墳が存在する。以上のように本県におけ



第１図　古墳位置図　S =1/25,000

る最古で最大級に属する古墳がこの地域に集中している。このことはこの地が古墳時代には、本県の政治的中枢地であったことを顕著に物語っているといえよう。

参考文献

１９８６ 山梨県教育委員会「銚子塚古墳附丸山塚古墳」－保存修理事業第３年次概報
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第１５集

１９９４ 山梨県教育委員会「上の平遺跡第６次調査・東山北遺跡第４次調査・銚子塚南東部試掘」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第９４集

２０００ 山梨県教育委員会「岩清水遺跡」－甲斐風土記の丘「曽根丘陵公園」造成に伴う発掘調査報告書
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第１８２集

第２図　銚子塚古墳　丸山塚古墳測量図　Ｓ＝１／１，０００
白抜き部分が指定範囲

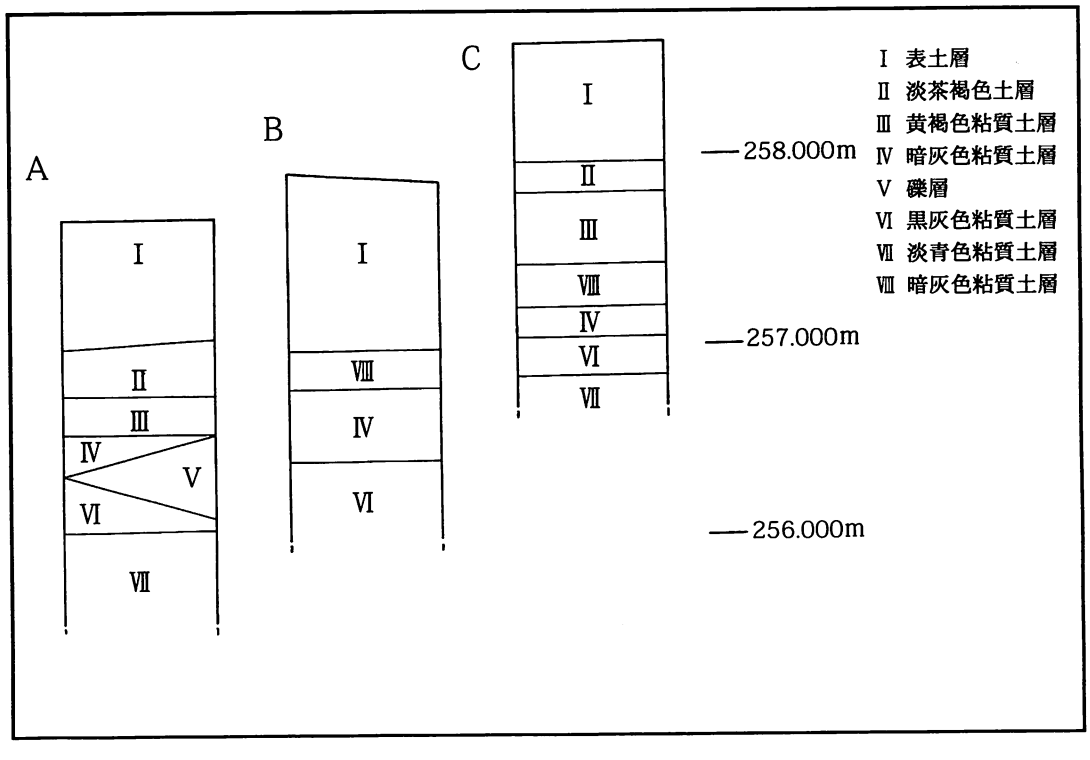
第２節　銚子塚古墳の概要

曽根丘陵下方の傾斜変換線上（標高約260m）に位置し、東西方向に主軸をとる長さ約169mを測る前方後円墳である。かつて本古墳は伊勢講の信仰対象地とされ伊勢塚とも称されていた。昭和３年に伊勢講幄舎建設に伴い後円部に竪穴式石室が発見され、続いて多数の副葬品も出土した。石室は割石を使用し小口積みで後円部の中央に古墳主軸とほぼ直交するかたちに構築されている。副葬品には、内光花文鏡、三角縁神人車馬画像鏡、仿製半円方格帯環状乳神獣鏡、三角縁三神三獣鏡など鏡５面、碧玉製車輪石、碧玉製石釧、仿玉類、管玉類、貝釧、鉄剣、鉄刀、鉄鏃、鉄斧、鉄鎌などがあげられ、畿内的な様相を強めている。なお、三角縁神人車馬画像鏡については岡山県車塚古墳、群馬県三本木古墳、福岡県藤崎遺跡出土の鏡と同笵関係にある。

第３章　調査方法と基本層序

第１節　調査方法

平成13年10月に実施した後円部西側部分の調査は、古墳主軸より15°ごとに放射状に用地内にトレンチ（１～５号）を設定した。また、平成14年１月に行われた北側部分については任意にトレンチ（６・７号）を設定した。双方ともに重機を使用して掘り下げ、その後、人力による精査を行い土層、墳端部、周溝等を確認することとした。 また、トレンチの設定にあたっては、隣接する民家や地下埋設物等を考慮し、さらに防護フェンス等で調査区域を囲うなどの危険回避措置を行った。



第３図　基本層序柱状図

第２節　基本層序

調査予定地のほとんどが墳丘端部と周溝内という特異な箇所であるため第４図に示すとおり周溝部分の平均的な３地点の層序を記して基本層序としたい。

Ａ地点では表土層下に淡茶褐色土層、黄褐色粘質土層と続き墳丘から崩落してきた葺石が礫層を形成している。Ｂ地点においては周溝底面近くに堆積したと考えられる粘質土層が厚く観察できた。Ｃ地点では、Ａ地点と非常に似た土層が観察できるが礫層はみられない。

第４章　調査の成果

第１号トレンチ

後円部中心点Ｏから古墳主軸に０°を設定し北方向へ45°の位置に設定したトレンチである。60cmほどの厚い表土の下、比較的安定した堆積をみせている。 墳丘端部は大きな攪乱によって上方は削平されていたが末端付近は墳丘を構成している地山層である黄灰色粘質土層が確認されている。 周溝には５～10cmほどの礫がレンズ状に厚い堆積をみせている。なお、この礫層は崩落した葺石の一部と推測される。また、底と思われる淡青色粘質土が確認できた。
出土遺物としては埴輪片（第７図１～３）が出土した。

第２号トレンチ

後円部主軸から北方向へ30°の位置に設定したトレンチである。約240cmの深度を測る。１号トレンチと同様に黄灰色粘質土層が確認され、これが墳丘端部をなしている。周溝にはやはり崩落した葺石が５～10cmほどの厚さでレンズ状に堆積をみせている。周溝底部からは淡青色粘質土層が確認された。
出土遺物としては埴輪片（第７図４～６）が検出された。

第３号トレンチ

後円部主軸から北方向へ15°の位置に設定したトレンチである。当トレンチでも１・２号トレンチと同様の堆積状況が観察された。 ＳＰ－Ｅより２ｍ地点に墳丘端部と周溝の変換点と考えられる地山層の変化がみられる。 出土遺物は埴輪片（第７図７）のほかに木製埴輪片（第７図８）が底付近より検出された。

第４号トレンチ

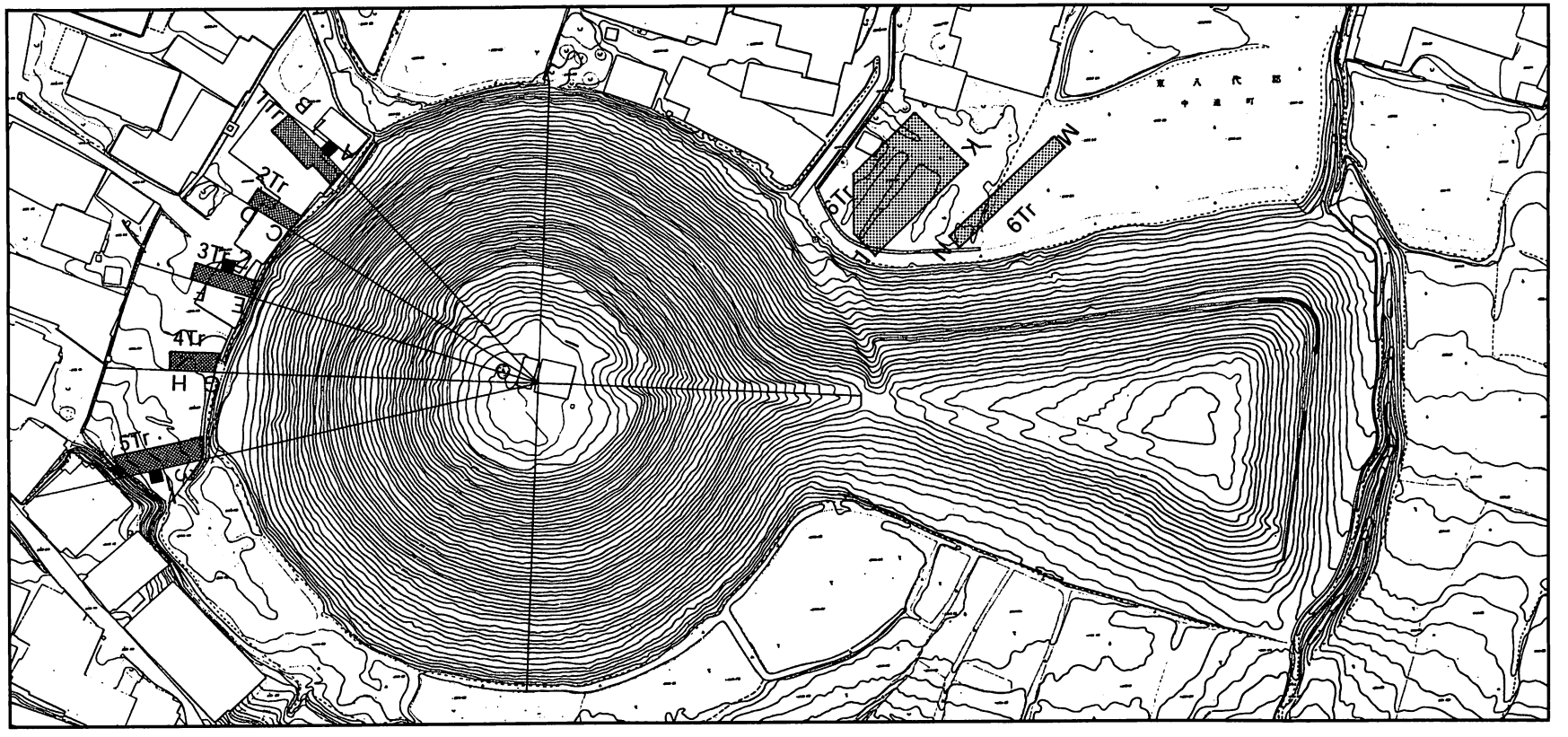
古墳主軸方向に設定したトレンチである。１～３号トレンチと比べ周溝深度が最深部で約160cmと明らかに浅い。また、葺石の崩落状況も墳丘裾部分で止まっているため周溝内の堆積は少ない。なお、遺物の出土はなかった。

第５号トレンチ

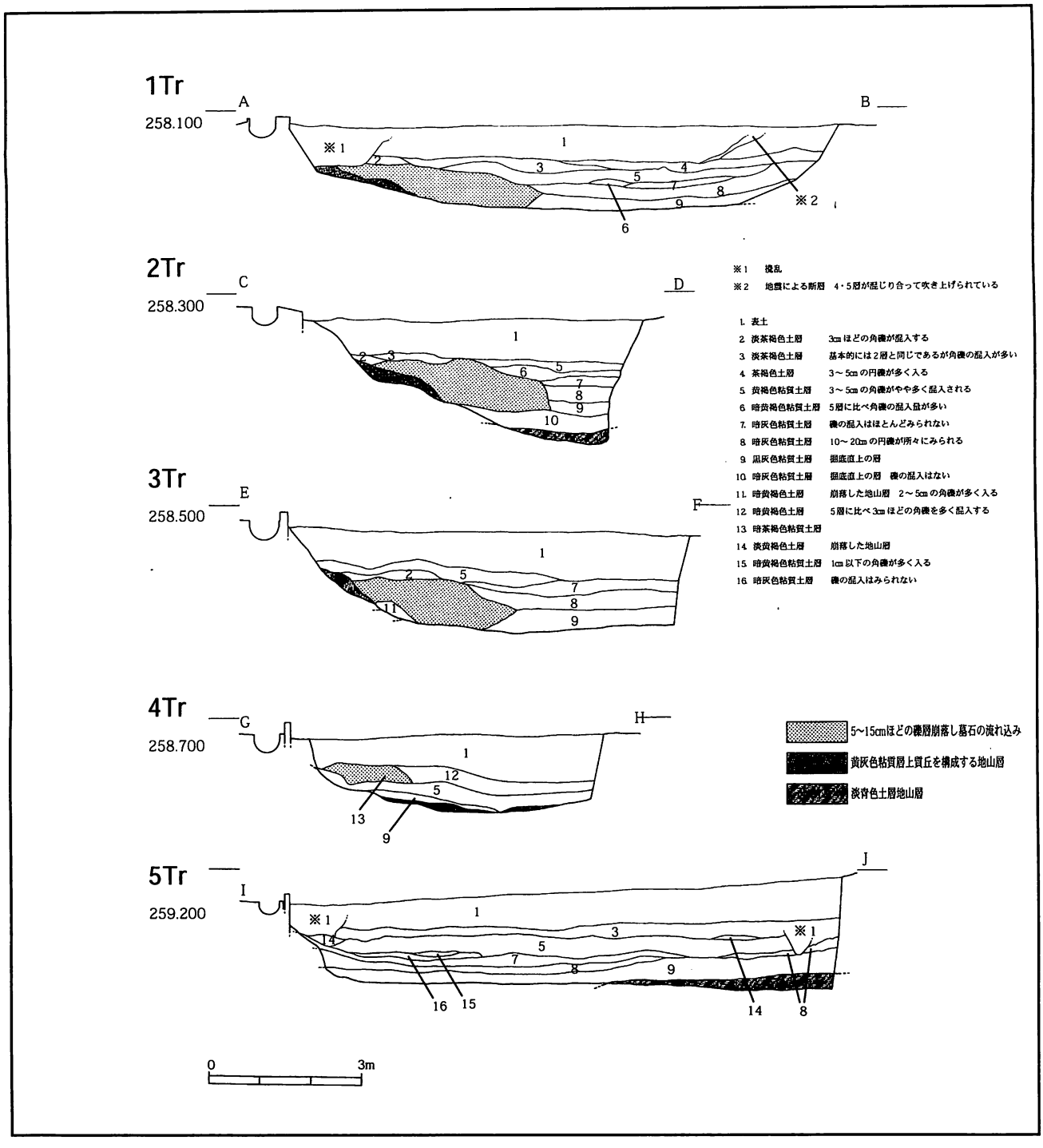
後円部主軸から南方向へ15°の位置に設定したトレンチである。当トレンチでは墳丘端部は捉えられなかった。周溝部分についても底が確認できたのみである。しかし、ＳＰ－Ｉから7.3m付近から全体に土層の上昇がみられ外側の立ち上がり変換点を予測させている。遺物の出土はなかった。

第６号トレンチ

７号トレンチとともにくびれ部分に設定された大型のトレンチである。各所に大規模な攪乱があるため良好な部位より周溝底部などを類推しなければならない状況であった。古墳本体側近くに



第４図　トレンチ配置図　S =1/1,000

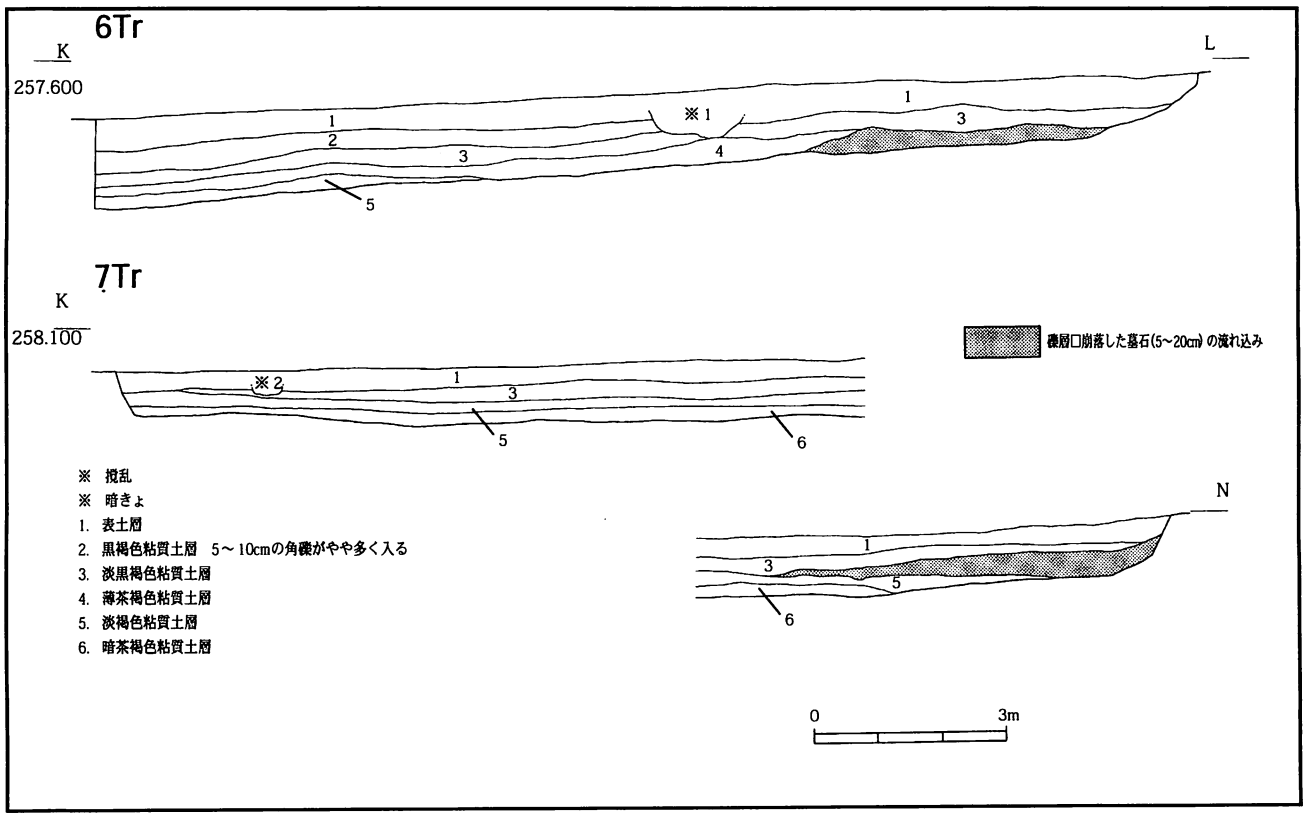


第５図　土層断面図その１　S =1/60

おいて５～20cm程の崩落した葺石が浅いレンズ状に堆積をみせ、その中から多量の埴輪片が検出された。１～５号トレンチと比較して周溝の深度は浅く底部の形状も比較的平坦で湧水量も少ない。遺物は、前述した礫層より多量に出土した埴輪片の大部分が円筒・朝顔形埴輪であり、極わずかに壺形埴輪が含まれている。

第７号トレンチ

６号トレンチに並行して設定されたトレンチである。古墳本体側では墳丘端部の一部と考えられる傾斜が確認された。また、各トレンチと同様に、葺石が崩落して形成した礫層がより厚く堆積している。



第６図　土層断面図その２　S =1/60

その他の層位はおおよそ６号トレンチと同様の堆積状況を示す。
遺物は礫層中より円筒・朝顔形埴輪片、壺形埴輪片が出土している。

第５章　まとめ

円筒・朝顔形埴輪

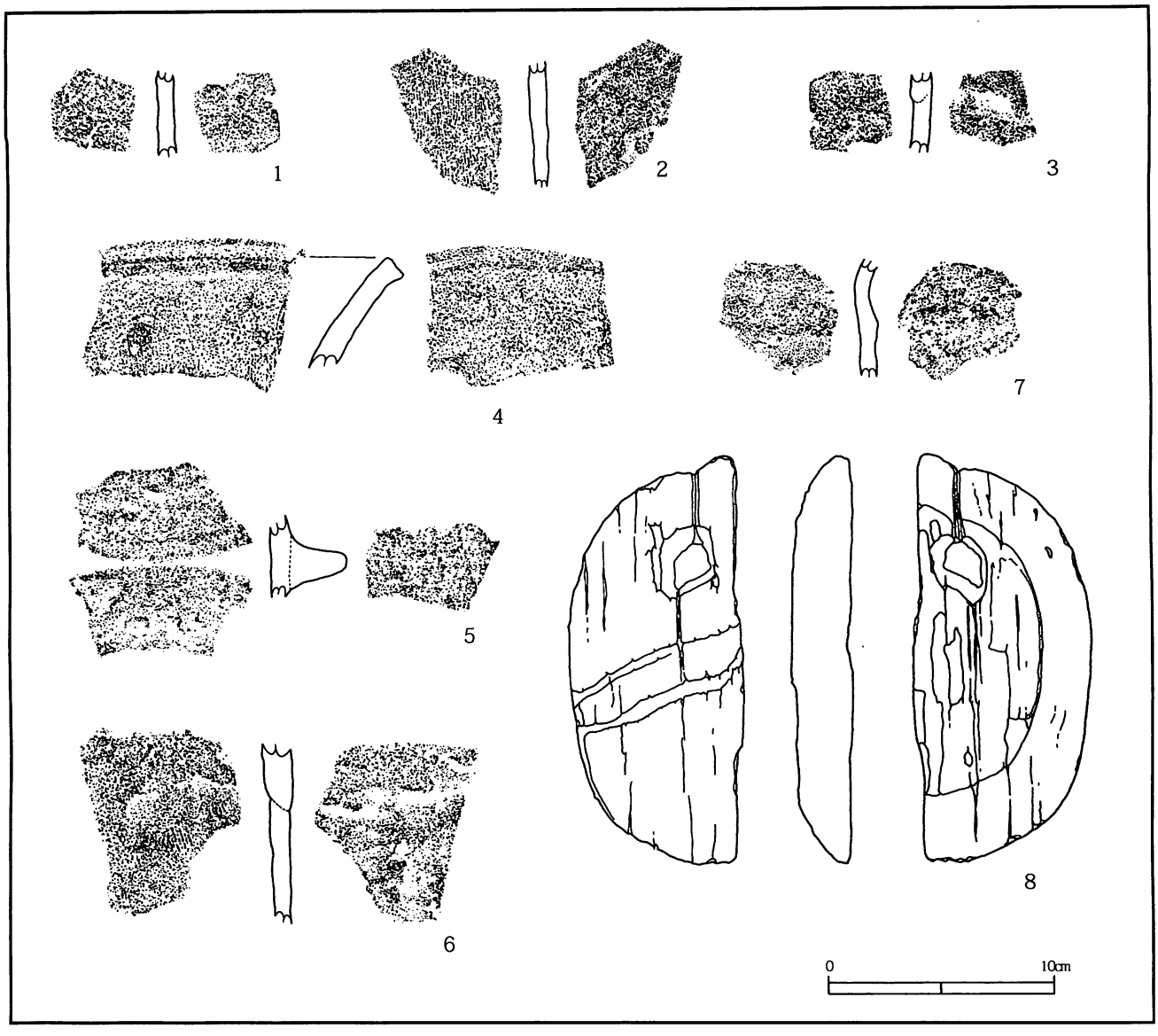
１号～５号トレンチ出土の埴輪片では全体の形状を理解できるものは少ない。形態が判断できるものは１点（第７図４）のみである。当該資料は逆ハの字状に開く形状をとるものと考えられよう。タガ部は１点（第７図５）である。

６・７号トレンチにおいては前述のものと違い完形に復元できるものはないがおおよその形状を理解できるものが数点検出された。

口縁部分の形態は逆位にハの字状に開く単口縁が主となっている。タガ部はすべて貼り付けでM字または台形に突出する。透し孔は三角および方形との二種があるようであり、巴形は検出されなかった。焼成は軟質で胎土も荒い。

壺形埴輪

６・７号トレンチよりそれぞれ口縁から頸部にかけての一部分が１点ずつ検出されている。その形態



第７図　第１～５Ｔｒ出土遺物実測図　Ｓ =1/3

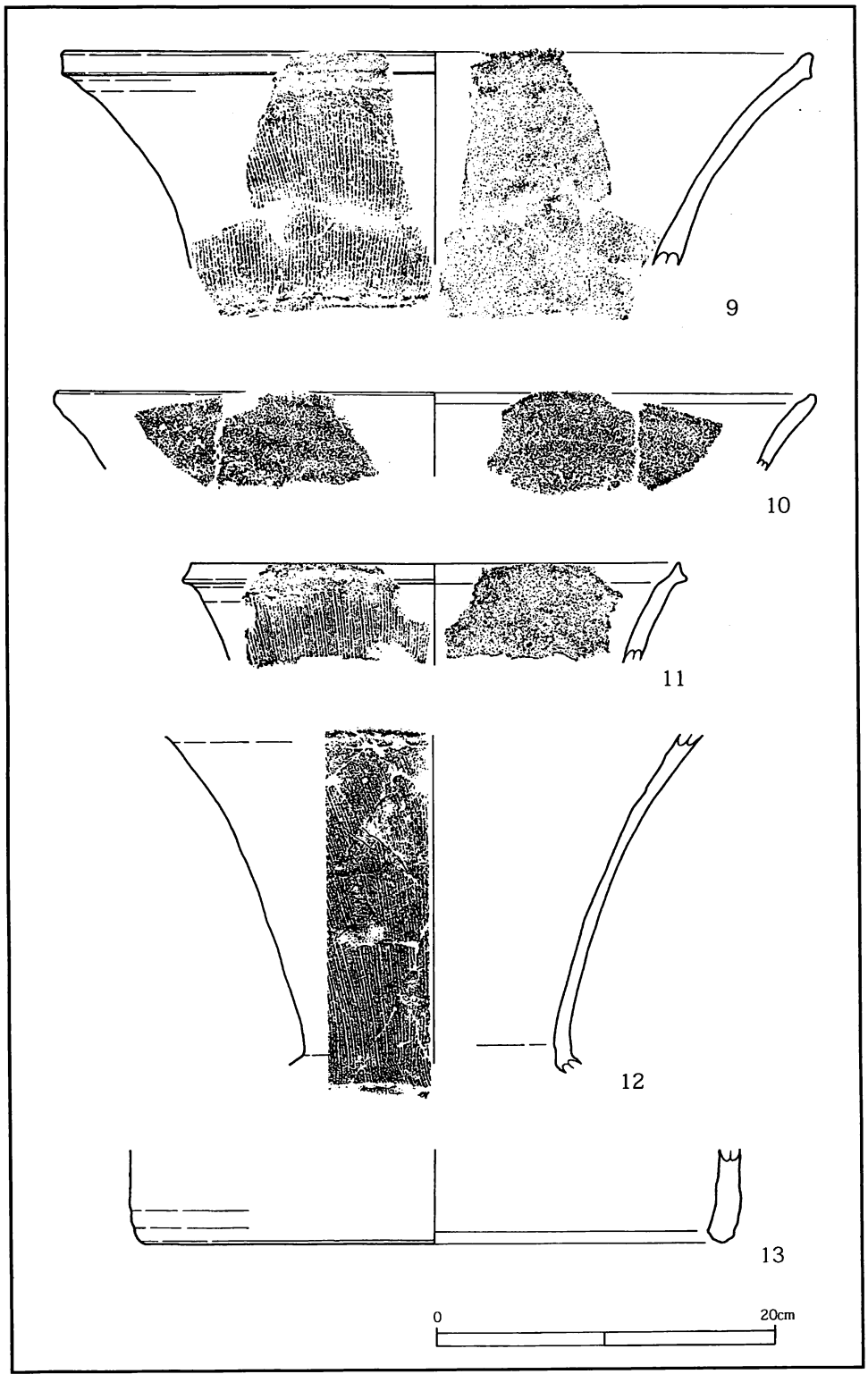
は以前の調査で出土した二重口縁壺と同様とみられる。しかし、透かし孔は現段階では確認できていない。また、タガについてもその有無は不明である。焼成はやや低温で軟質であり、胎土も荒い。

木製埴輪

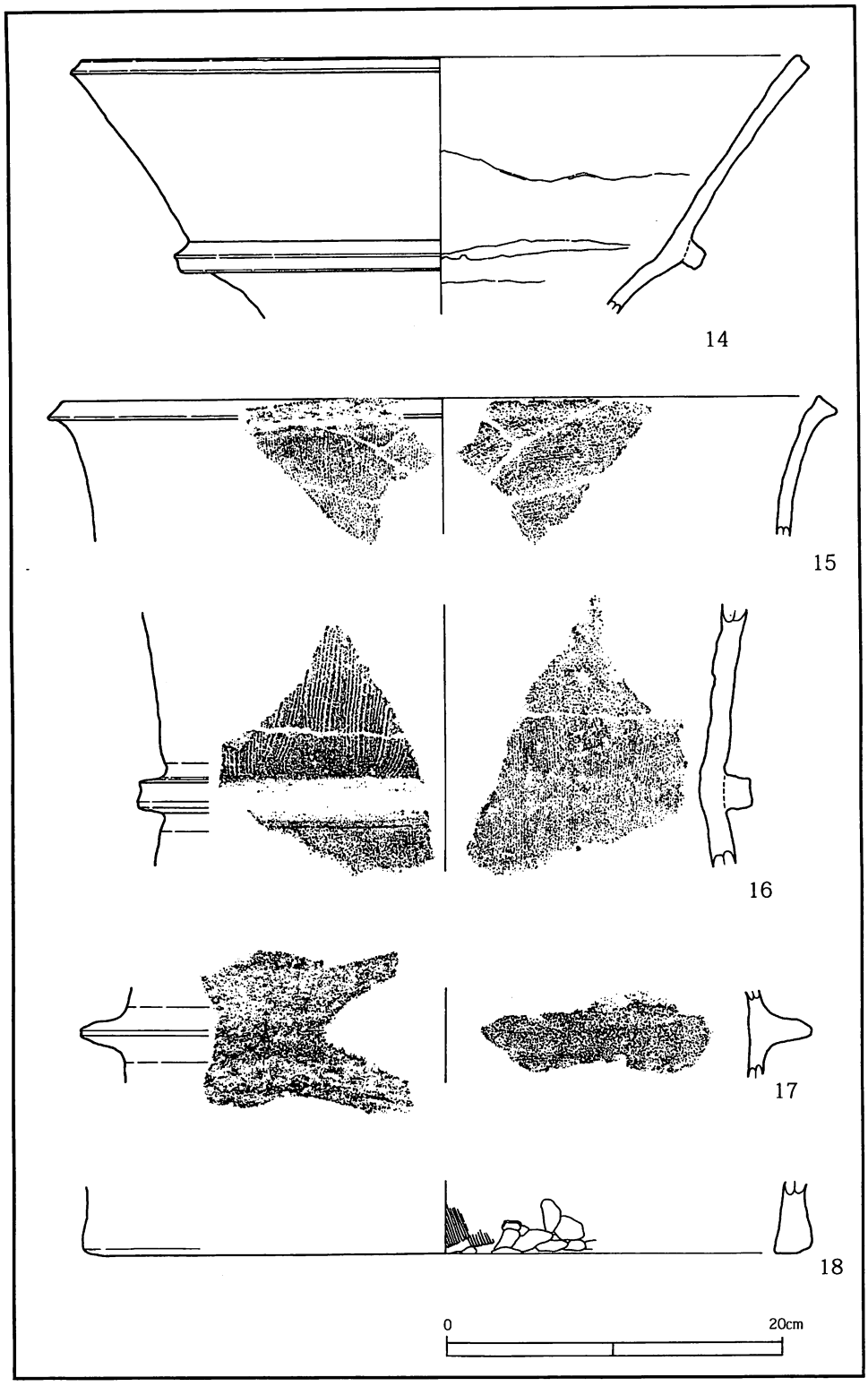
昭和58～60年にかけての調査で出土し、有孔円盤状木製品として紹介されたものと同形状を示す。直径 18.10cm、厚さ 2.86cmを測り、断面形は台形状をなしている。穿孔は２箇所が確認できる。

周溝

周溝は後円部形状と同様の一重である。南側から北に回り込むにつれて地形に沿うように深度を下げていく傾向がある。底部分は古墳の立地状況が北下がりの緩傾斜地にあるため南－西－北と低くなっている。幅は当初の予測よりも広いようである。



第８図　第６Ｔｒ出土遺物実測図　Ｓ =1/4



第９図　第７Ｔｒ出土遺物実測図　Ｓ =1/4

出土遺物計測表

番号	Tr	器種	法量 (cm)		調整			胎土	焼成	色調	残存状況	注記番号
			口径	底部径	表面	裏面	底部					
1	1	円筒・朝顔形埴輪						粗	軟質	暗乳茶褐色	小破片	1Tr−1
2	1	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	1Tr−2
3	1	円筒・朝顔形埴輪				ナデ		やや粗	軟質	淡茶褐色	小破片	1Tr−3
4	2	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	刷毛		粗	やや軟質	暗乳茶褐色	小破片	2Tr−1
5	2	円筒・朝顔形埴輪				ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	2Tr−2
6	2	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	2Tr−3
7	3	円筒・朝顔形埴輪			ナデ	ナデ		粗	軟質	乳茶褐色	小破片	3Tr−1
8	3	木製品									1/2残存	
9	6	円筒・朝顔形埴輪	38.80		刷毛	ナデ		やや粗	やや軟質	乳茶褐色	1/10残存	6Tr−1
10	6	円筒・朝顔形埴輪	44.45		ナデ	ナデ		粗	軟質	暗乳茶褐色	1/10残存	6Tr−5
11	6	円筒・朝顔形埴輪	28.85		刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	1/10残存	6Tr−3
12	6	壺形埴輪			刷毛	ナデ		粗	やや軟質	薄赤茶褐色	1/2残存	6Tr−2
13	6	円筒・朝顔形埴輪		34.20	ナデ	ナデ		粗	やや軟質	淡茶褐色	1/10残存	6Tr−4
14	7	壺形埴輪	42.50		刷毛	ナデ		粗	やや軟質	乳茶褐色	1/3残存	7Tr−2
15	7	円筒・朝顔形埴輪	44.70		刷毛	刷毛		粗	やや軟質	淡乳茶褐色	小破片	7Tr−1
16	7	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	刷毛		粗	やや軟質	乳茶褐色	小破片	7Tr−3
17	7	円筒・朝顔形埴輪			刷毛	ナデ		粗	軟質	乳茶褐色	小破片	7Tr−4
18	7	円筒・朝顔形埴輪		43.00		刷毛		粗	軟質	乳茶褐色	小破片	7Tr−5

＊表中の注記番号は01銚子塚が省略してある。

写真図版

写真１
銚子塚古墳前方部より後円部を望む

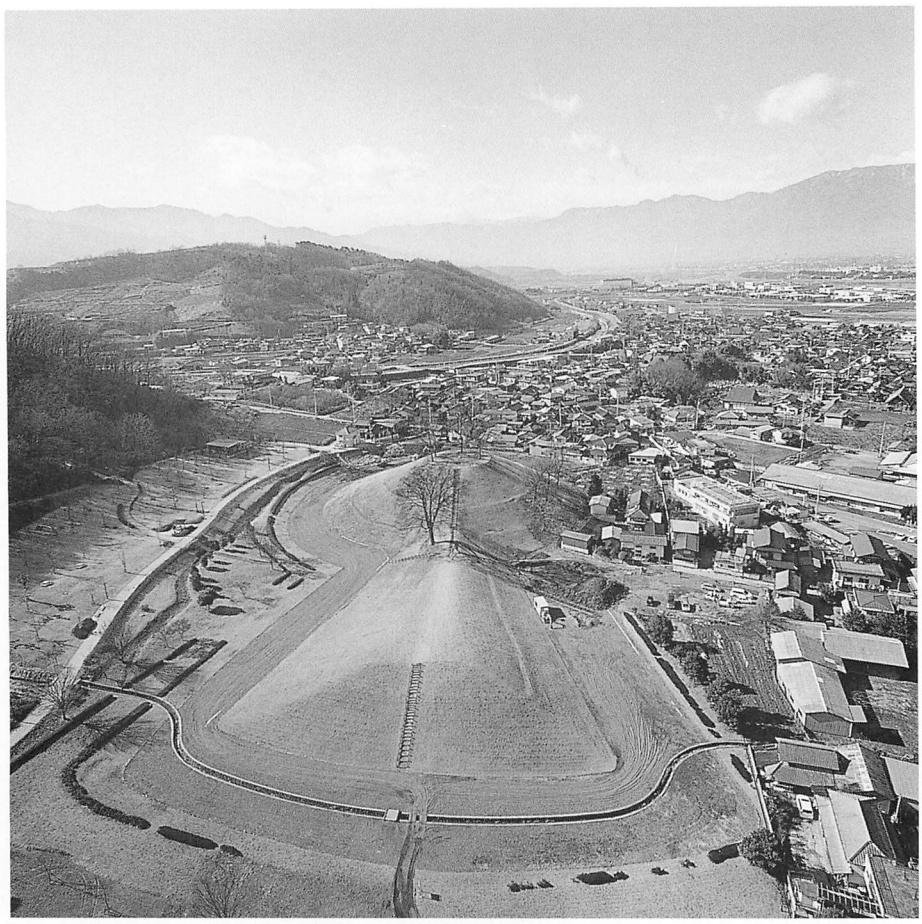


写真 2
前方部より西方を望む

写真 3
古墳全景

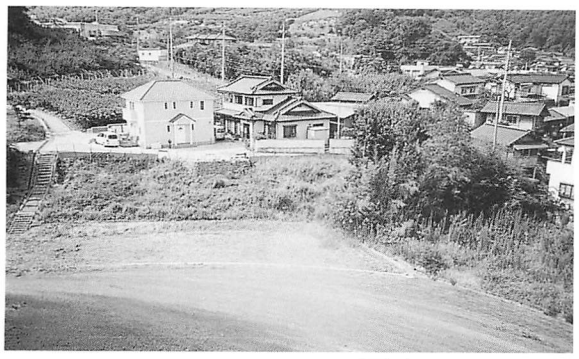


写真４
調査前の様子１

写真５
調査前の様子２

写真６
調査前の様子３

写真７
終了後の埋め戻し状況１

写真８
終了後の埋め戻し状況２

写真９
第１Ｔｒ　土層断面

写真１０
第１Ｔｒ　調査風景

写真１１
第２Ｔｒ　土層断面

写真 12
第３Ｔｒ　土層断面

写真 13
第３Ｔｒ　排水作業

写真 14
第４Ｔｒ　土層断面

写真 15
第５Ｔｒ　土層断面

写真 16
第５Ｔｒ
掘削状況

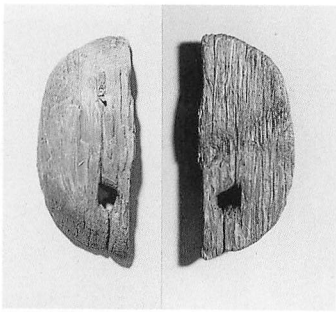


写真 17
第３Ｔｒ　出土木製品

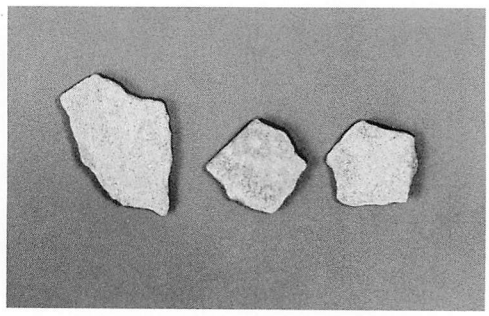


写真 18
第１Ｔｒ　出土埴輪片

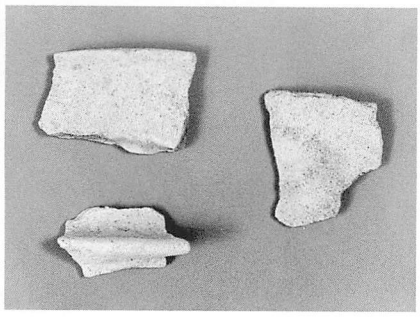


写真 19
第２Ｔｒ
出土埴輪片

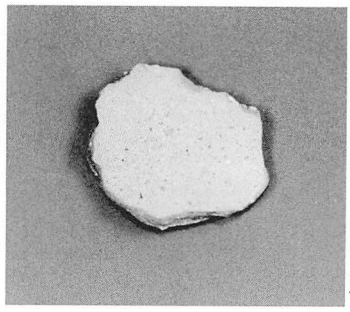


写真 20
第３Ｔｒ
出土埴輪片

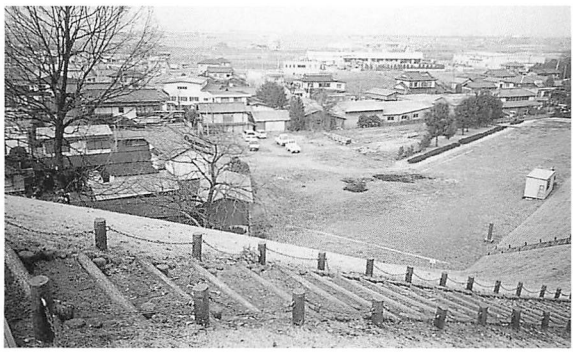


写真 21
第６・７Ｔｒ　調査前の状況

写真 22
第６・７Ｔｒ　埋め戻し後の状況

写真 23
第６Ｔｒ　重機による掘削

写真 24
第６・７Ｔｒ

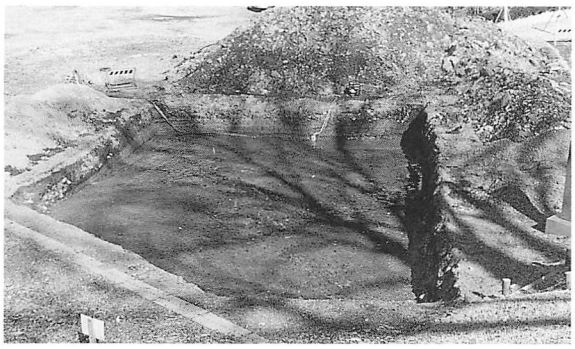


写真 25
第６Ｔｒ　その１

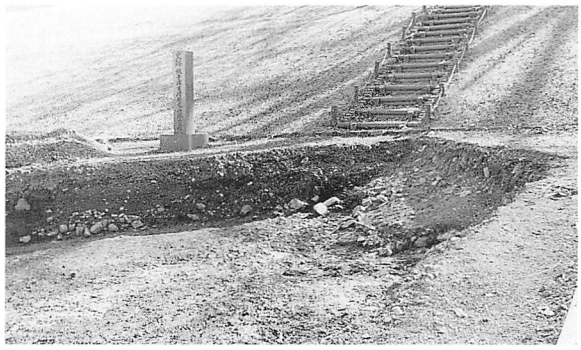


写真 26
第６Ｔｒ　その２

写真 27
第７Ｔｒ

写真 28
第７Ｔｒ　掘り下げ風景

写真 29
後円部南西残土処理前

写真 30
後円部南西残土処理後

報告書概要

ふりがな	くにしていしせき　ちょうしづかこふんふまるやまづかこふん
書名	国指定史跡　　銚子塚古墳附丸山塚古墳
副題	史跡整備事業に伴う発掘調査報告
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第１９５集
編集社名	吉岡弘樹・斉藤伸
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
住所・電話	〒400—0015　山梨県東八代郡中道町下曽根９２３ TEL０５５－２６６－３０１６
印刷所	(株) ダイショウ印刷
印刷日・発行日	平成１４年3月２０日・平成１４年3月２８日

史跡概要

遺跡名	国指定史跡　銚子塚古墳附丸山塚古墳
所在地	山梨県東八代郡中道町下曽根字８７４
地形図	２５,０００分の１　　甲府
位置	北緯３５°３５′２０″　　東経１３８°３５′０″
市町村コード	１９３２６
主要な時代	古墳時代
主要な遺講	周　溝
主要な遺物	木製埴輪、円筒・朝顔形埴輪、壷形埴輪
調査機関	平成１３年１０月9日～２４日・平成１４年1月１５日～２８日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告集第１９５集

国指定史跡　銚子塚古墳附丸山塚古墳

史跡整備事業に伴う発掘調査報告

印刷日　平成１４年3月２０日
発行日　平成１４年3月２８日
編　集　山梨県埋蔵文化財センター
印刷所　(株) ダイショウ印刷